

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401657		
法人名	株式会社日進開発		
事業所名	グループホーム「さくらほうす」		
所在地	長崎県南島原市有家町山川21		
自己評価作成日	令和 元年 9月 5日	評価結果市町村受理日	令和元年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「さくらほうす」では9名と少人数ですが、それを活かした対応ができ、介護理念を念頭に置き入居者様へは思いやりを持ち接しています。前は自由な服装でしたが、8月より制服となりましたが、「さくらほうす」の明るい家庭的な雰囲気は崩さずに生活して頂いています。地域との交流は、減少しつつありますが、毎年恒例の七夕会では入居者様も楽しみにされ子供達との交流を交え楽しんでいます。医療面では職員の中にも看護資格を持っている者もおり気になる事は相談し指示を受け、健康管理も随時行っています。今後も「さくらほうす」の家庭的な雰囲気のイメージは崩さずに、入居者様と共に時間を大切に生活して頂きたいと考えています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市役所支所や郵便局、商業施設に程近い住宅地に位置する当ホームは、開設16年を迎えた。ホームに面する路地では散歩や買物などで地域の方が日常的に行き交い、職員は挨拶や声掛けを通して地域の中に溶け込みながら地域のホームへの理解へと繋げている。ホームは3年前に経営母体が変わり、施設長・管理者の交代に伴う運営方針の転換や介護の質の向上、また働きやすい職場環境づくりに取り組んできた。施設長や管理者、豊富な介護経験を持つ母体管理者は何事にもまずは話し合うことを大事にし、職員一人ひとりが持つ力を引き出している。職員同士で声を掛け合うことを大事にした職場環境は入居者や家族への丁寧な関わりにも反映され、風通しの良さは職員の定着にも繋がっている。玄関先での職員の明るい出迎えや共用空間での入居者への温かな声掛けによって笑い声の絶えない家庭的な雰囲気となっており、温かで居心地の良さを感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム「さくらはうす」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関へ提示し確認できる。 又、事業所管理簿に記載されており毎日報告書を作成する事で再確認し実践できている。	職員は毎月理念をもとに目標を設定し、日々の業務を振り返るとともに反省や具体的改善策の共有を図っている。それぞれが設定した目標を達成するためにはどうすれば良いのか互いに考え、声に出して実践することで理念の浸透を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	七夕会で自治会の子供会への参加のみ。 外出の機会も高齢の為に億劫になられている様です。	入居者の高齢化に伴い地域との関わりが困難な状況にあるが、職員は地域との交流を通じて地域のホームへの理解に繋げている。ホームでは日常の挨拶だけでなく、子ども会との交流や福祉体験の受け入れ、認知症高齢者への専門職としての関わり方を地域の方に伝えながら、入居者とともに地域に溶け込んだ暮らしを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉体験の受け入れや地域主催の文化祭へ出展する作品の制作		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行政担当者、御家族様、地域の方にご参加頂き、現状報告や意見交換を行っているが家族の参加が限定されており欠席の方へは面会時など意見を伺うようにしてサービスに活かすようにしている	運営推進会議では参加者からの意見や問い合わせが多くあり、職員は参加者からの意見一つひとつに対して丁寧な返答や説明を行うことで、ホームへの理解が得られるよう努めている。今年度は年間行事についての助言があり、次回会議では助言を踏まえた開催を予定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ参加して頂き現状を理解していただいている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、関係制度の方向性の確認やホームの悩みを迅速に解決できるよう連携を図っている。今年3月には市職員協力のもと、避難訓練へ地元消防団や支所職員立ち合いが実現し、地元の事情に通じた視点からの助言を得ることができた。ホームは今後も地域との連携を意識した運営を進める意向にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修へ参加し理解できているが、転倒のリスクが高く、ご本人様が理解乏しければご家族様の同意を得てセンサーを利用。夜間帯は防犯上の問題で施錠しています。	ホームは身体拘束をしないケアの実践に取り組んでおり、毎月母体法人で行われる身体拘束に関する研修に参加しながら入居者への具体的な対応方法をスタッフ会議で共有し、職員の意識統一を図っている。現在、足元センサーの使用はあるが、職員はその方がどういう理由で起き上がるのかを知り、どのようなケアを行っていくのかをスタッフ会議で共有しながら行動を抑制しないケアの実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し意識を務めているが日常の何気ない言動が身体的だけではなく精神的な虐待に繋がる事をスタッフが意識し注意できる様にしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等の機会もなく理解不足といえる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、施設長による口頭書面での説明を行い理解と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加された時や面会の際にご家族様の近状をお尋ねしたり毎月「さくら通信」を作成しホーム内での様子をお手紙で報告している	ホームは家族に向けて「さくら通信」とともに手紙を添えて送付し、運営状況や入居者の様子を伝えている。施設長や管理者は日々の暮らしの中から入居者の心情を汲み取るとともに、家族の心配や介護方針を共有を受診や面会の都度行いながら、入居者や家族が穏やかに過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、スタッフ会議を開催し意見交換を行ったり、業務上での気付きはその度に提案、傾聴するように努めている	ホームでは月1回のスタッフ会議で入居者の現状を確認し、業務の課題やその改善に向けた話し合いを行うことで支援の統一を図っている。会議には母体職員の参加もあり、職員や本部職員との意見交換や職員それぞれの視点からの考え方を汲み取りながら働きやすい職場づくりに取り組んでいる。施設長や管理者による個人が持つ能力を最大限に引き出せる関わりによって職員の定着にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休はできる限り希望に添える様にしているが不測の事態においてはスタッフ間での協力が得られている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は多く参加できているが社外研修の参加は少ない 研修を生かしたスキルアップに努めたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の事業所とは社内研修等でグループワークの際に意見交換などできているがそれ以外での交流はない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴から行動パターンを把握し表情や言動の観察を行いコミュニケーションを取りながら傾聴するように努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に一度見学に来て頂き生活の様子を見て不安のないものとし思っている事を聞き出せる様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病歴や経歴の情報を職員間で共有し、状態を観察しながら適切な支援が提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で個々に合ったお手伝いなど「出来る事」を見つけ一緒にしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「さくら通信」とご本人様の様子をお手紙にて報告し、なかなか面会に来られないご家族様にも出来る限り共有しご理解頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に制限はなく、気軽にいつでもお越し頂ける馴染みの美容室に行かれたり、自宅への外出も対応できている	職員は入居者の何気ない言葉や仕草から心情を汲み取り、入居者の家族や友人は「その方にとって大切な人」であり、ともに入居者を支えるパートナーとして捉え、大事にしてきた関係性が継続できるよう努めている。ホームでは外出・外泊や急な冠婚葬祭への出席にも対応しており、家族と相談しながら出来る限り本人が納得できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクを取り入れ一緒に楽しんで頂いたり利用者が仲裁へ入り会話が成立できるようにサポートしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本情報やアセスメント等の情報共有を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様が思っている事を話しやすい雰囲気を作り表情や言動を観察しながら思いや希望を汲み取れるように努めている	職員は日常会話の中から入居者の気持ちを引き出し、これまでの生活状況を家族に確認しながら本人の思いや生き方を理解した支援に取り組んでいる。支援の前には必ず声を掛け、本人の意思や感情を確認しその方のペースを守っている。手を握るなどのスキンシップを大事にした関わりによって入居者の安心へと繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや日々の会話の会話の中から様々な情報を収集し知りえた情報を共有する事でさらに多くの情報が得られる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を個人記録に記入し必須事項は申し送りノートに記入し共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決めご家族様の意見を聞き取り、スタッフ会議などで話し合い状態に応じた計画書をケアマネジャーが作成している	職員一人ひとりの視点から入居者の心身の状態を個人記録に記載し、毎月のスタッフ会議で入居者が持つ力や様々な変化を互いに共有しながら入居者の望む暮らしの把握に努めている。介護計画立案の折には分かりやすい言葉を用いて家族に説明し、立案の経緯や介護への要望などを取り入れながら現状に即した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は個人記録に記入し重要点は申し送りノートへ記入。 受診や状態の変化はマーカーで色分けし分かりやすい様に共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適切に状態の変化に合ったサービスの提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる文化祭への出展 展示物への見学(外出)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/月の嘱託医往診あり。 本人、家族に希望に応じたかかりつけ医への受診(付き添い)。経過、検査結果等は嘱託医へ情報として共有。	職員は入居者の小さな変化に注意を払い、普段の状況と異なる場合は状態観察を行いながら症状の早期対応に努めている。施設長や管理者は看護・介護の視点で体調管理を行い、医療連携看護師や主治医の指示を仰ぎながら受診判断や次回受診時に向けた対応の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師がおり、状態に応じた早期受診を心掛けており、週1回の訪問看護があり相談、助言にて対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	許可があれば入院中に面談を行い不安のない様にし治療状況や状態については病院、ご家族と連絡を取りながら今後についての相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向や主治医と相談し今後の方針などを決定しているが、現段階での看取りは行っていない	現在、医療対応を望む家族が多いこともありホームでは看取りを行っていないが、入居者に体調の変化や治療方針の変更があった際には主治医・家族・ホーム三者で対応方法を検討し、方向性の共有を図っている。ホームは今後看取りの希望があった場合に備え、医療体制の更なる強化や看取りについての研修実施など職員の体勢を整えながら看取り支援に取り組む意向にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急への参加や看護師からの助言を得ているが、実際には対応した事がない等 経験と対応力に差がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	2回/年 避難訓練の実施。 消防署員、消防団の参加が頂けるも、近隣住民への参加の依頼はしている。 毎回チェックリストを付けている。	ホームは消防及び防災計画書を整備し、定期的な訓練で内容の振り返りを行いながら入居者の安全確保に努めている。今年度は避難経路の一つであるテラス側スロープを新たに整備し、迅速に避難できるよう環境整備を行った。また、運営推進会議開催時に地元消防団や支所職員立ち合いのもと訓練を実施し、風水害時の課題や対応の共有を図り、防災を意識し取り組んでいる。	ホームでは防災計画書を作成しているものの、風水害訓練については未実施となっている。職員間で防災計画を読み合わせるのと同時に、ハザードマップの確認及び情報収集訓練など更なる入居者の安全を考慮した取り組みに期待したい。また、入居者情報を一つにまとめた持ち出しファイルの再整備が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「優しい言葉かけ」に努め、声のトーンや口調に注意し時には冗談や方言を交えながら場面にあった表現を使う様にしている	職員は人生の先輩である入居者の羞恥心や自尊心を些細な言動によって損ねないよう、言葉遣いや態度など互いに気に掛けながら対応するよう努めている。入居者の表情や仕草から本人が望んでいるもしくは望んでいないのかを汲み取りながら関わりを持つよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を与えられる様な言葉をかけ自己決定が困難なようであれば、本人に再度確認しながら職員が判断することがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを優先するべきと考えるも業務の流れに合わせてもらう事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく本人様へ選んで頂くようにしているが 必要があれば一緒に選んだり整える支援は行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行うが、お盆並べ、テーブル拭き等の簡単なお手伝いをして頂いている 食事も会話を心掛けている	ホームでは入居者の有する能力に応じて食事の後片付けなど役割を分担し、入居者個々の力の発揮へと繋げている。食卓の中央に置かれた職員手づくりのお漬物を入居者同士で声を掛け合いながら取り分けたりよそったりしながら会話を楽しむ食事風景が見受けられ、家庭的な温かさが感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えた献立表があり、毎食の食事量をチェックしている。食事量不足の方には栄養補助ドリンクなど提供。状況に応じて食事形態を工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施し、必要に応じて介助を行う。 定期的に歯科往診あり。口腔内チェックやブラッシングなどの実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に排泄パターンを把握し、言葉かけを行い現状維持できる様にしている	ホームではトイレで排泄できることを目標に、ベッドや椅子からの立ち上がり、車椅子から椅子に座り直すことでの立位保持や移乗能力の維持など、生活リハビリを重視した支援を行っている。希望者には外来リハビリを取り入れながら排泄の自立に向けて日々取り組んでいる。職員は入居者が排泄の訴えや汚物の後始末を差し出しやすい言葉掛けを行うことで、入居者の羞恥心や自尊心に配慮した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や牛乳、ヨーグルトなどの提供 排便チェックを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日は決めているが、体調や入浴拒否が見られる際はその場で変更できる。又入浴順番もタイミングに合わせて入浴出来るようにしている	職員は入居者の日課や一人ひとりのペースを大事にしなが、無理強いせず本人が安心して入浴できるよう支援している。入浴の拒否がある場合にはその方の心情に寄り添い、対応する職員を交代したり対応や声掛けを工夫したりしながら清拭や更衣で対応するなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体操やレクリエーションを取り入れており、リビングにみえる事が多いが昼寝の時間も設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルのお薬手帳にて確認できる。薬の変更時には申し送りノートに記入。副作用に関しては全て理解してるとは言えない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合った役割分担を実施。出来た事に対してはお礼や褒める事で意欲を引き出すように支援する		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自ら外出される方はみえないが、年数回は行事で外出する程度。数名の方は、お盆や正月を外泊されている受診などで外出の際はドライブ兼ねて楽しく過して頂けるように努めている	ホームでは日常的にホーム周辺の散歩や外気浴を取り入れている。また、行事での外出以外にも個別に対応し、入居者が外に視線を向けることができるよう意識した支援に取り組んでいる。入居者の高齢化に伴い外出が億劫に感じる方も多い現状にあるが、テラスに植えた花を見ることで天候の悪い時でも外を感じることができるよう工夫することで、気分転換を図ることができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の現金を持たれている方はいるが、買い物へ行かれる事は殆どない。 必要時にはホームで立替え請求となっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は必要時に使用されている。希望時には電話を掛ける様にしている 毎年、年賀状を作成し発送して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりが良く明るい。 それぞれが過ごしやすい場所で過ごされる 台所からも様子がうかがえ、生活感を感じられる造りとなっている 季節に合わせた壁飾り等もある	ホーム共用空間は職員の丁寧な掃除によって清潔に保たれている。職員は空調管理や整理整頓に努めながら入居者にとって気持ちの良い空間づくりに取り組んでいる。リビングは車椅子の方も自由に行き来できるよう家具を配置し、ソファは入居者の寛ぎの場として活用されている。壁面には職員のアイディアによる季節感が感じられる飾りが掲示され、入居者の暮らしが楽しくなるよう取り組んでいることが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには椅子、ソファ 和室には座椅子もあり自由に過ごせるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた物を持参 徐々に写真やお祝いの色紙などが増えてきて生活感がでている様子	職員は入居者が自宅で使用していた物の持ち込みを家族と相談したり依頼したりしながら以前の生活が継続できるよう取り組んでいる。清潔で明るい室内は入居者の気持ちを穏やかにし、その方が好む寝具や手の届く範囲に設置された手回り品によって、その方らしく家庭的な雰囲気を大事にした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室と確認できる様に表札や飾りを付けて目印としている。コールボタンを押せない方にはハンドベルを身近に配置して工夫している		